

書面会議におけるご意見と市の考え方

◆肯定意見

No.	意見	市の考え方
1	地域をよくしていくためには、まず試してみないとわからないことが多い ため、実証運行開始には賛同する。	マイカー依存、地域住民の高齢化の進行に伴い、福祉や公共交通といった 分野を問わず、移動を困難に感じられる方がおられる実態を踏まえ、今回 の実証運行の中で対応を検討してまいります。
2	今回は6か月間の実証実験であるが、この内容は地域福祉の観点から高齢 者の移動支援に寄与するものであるため、公共交通に向けての検討結果に 拘らず、地域の意見を聞きながら病院の社会貢献の一つとして継続できる よう考慮いただきたい。	委員ご指摘のとおり、引き続き福祉部局と連携して進めてまいります。
3	本年5月～6月に5地域で現地ヒアリングを行い「病院送迎車輛の利用」施 策を推進・検討されている事は、高齢者の生活支援（買物・病院）として も重要かつタイムリーな取り組みだと考えます。市民・事業者・行政の三 者協働による今回の移動支援の取り組みが将来的な公共交通利用促進につ ながる事を期待したいと思います。	高齢者の移動ニーズは、福祉の観点からの利便性を検討する必要があると 考えています。引き続き、地域、関係機関とともに公共交通の施策展開を 検討して参ります。
4	道路管理者から選任される立場の委員としては、意見ありません。	了解しました。
5	安心・安全な運行をいただける事、期待しております。	本来、人員の輸送は道路運送法に基づき安全に運行されることを目指すも のです。病院車両の送迎についても同様に十分安全に留意し安心・安全な 運行を促します。

◆指摘意見

No.	意見	市の考え方
6	1. 今回の事業に関する地域ヒアリングについて、一部の報道でヒアリン グの件数が少ないのではという指摘が掲載されていた。より広範な住民の 意見把握のために、属性を含め、地域の広い層の意見の集約に努めてほし い。	委員ご指摘のとおり、今後幅広い層の意見集約も必要となるかもしれませ んが、ヒアリングの件数に関わらずその声が、既存公共交通の衰退を裏付 ける住民意見をいただいたものと分析しています。引き続き、地域、関係 機関とともに公共交通の施策展開を検討してまいります。
7	2.実証実験のエリアである紫ヶ丘自治会住民の中での周知及び利用対象 者の人数、住民の自家用車保有状況の把握に努めてほしい。	委員ご指摘のとおり、紫ヶ丘町内会とも連携し、広い範囲での周知を図る とともに自動車保有状況の把握に努めます。
8	3.実証実験を通じて、地域での移動問題の実態把握のために、次の視点 からの住民アンケートなどをお願いしたい。 ① 実際に利用した高齢者、利用しなかった高齢者、高齢者以外など様々 なカテゴリーでの住民の意識の把握。 ② 実証実験では病院の社会貢献の意味合いが強いが、公共交通利用への 行動変容を促していくための条件を提示の上での、行動変容に向けての意 向	委員ご指摘のとおり、実証運行の結果を分析いたします。
9	①府内の他の市区町村で「病院送迎車輛」以外の活用例はありますか？ ②「宇治徳洲会病院」以外に将来検討可能な病院（市東部…宇治病院、市 西部…岡本記念病院）はありそうでしょうか。	①全国的には病院以外も含めた民間企業の送迎車両を活用した事例があり ますが、府内の詳細な実態は把握できておりません。 ②送迎車両の混乗は、地域と企業・団体との協力関係により実施されるも ので、まずは横島での実証運行に取り組み中で他の地域での展開を検討し てまいります。
10	報告資料に、宇治市としての問題認識と改善に向けた取組の方向性を入れ ていただいた方が理解しやすいと思いました。（対面の会議で説明される 場合なら、そういったお話をはじめにされるように思います。）	報告内容がより分かりやすいよう資料を改善してまいります。
11	全体としては、買い物と通院という、高齢者に重要な二つの必要な輸送手 段を兼ねるのは、生活実態に即した適切な取り組みという印象を受けまし た。市側や関係主体側からは、将来的に、公共交通への行動変容が促され ることを期待するというのもよく理解できます。 一方で、行動変容までは、今回の取り組みの大きさに比べて、やや過大な 期待かとも思われます。 時代に合った比較的小さな取り組みなので、小さな取り組みは、小さな改 善で利便性を高めるといのが、今回の取り組みには適切な方向だと考え ます。	本事業は、既存の病院送迎車両の一部を活用したものであることから、実 証運行の状況をみるなかで、今後の展望について検討していきたいと考 えております。

No.	意見	市の考え方
12	<p>1. 宇治市は、ご送付いただいたGIS地図を見ても、中山間地を除いては、公共交通が市内をよくカバーしている自治体なのは確かだと思います。逆に言えば、バス停まで距離がある地域も限られていて、市内ではどの地域をケアしたら良いか把握しやすいです。そこで、現状で病院送迎ルートのみならずの変更で、カバー可能な地域があるならば、GISデータを共有の上、病院側と協議してみる価値はありそうと感じました。</p> <p>今回の取り組みで、病院利用者以外にスーパーを利用するパターン（潜在的な利用者）は、送迎経路の往路途中から乗車し、スーパーで降車するパターンだと思います。つまり、「潜在的な利用者」が住む地域は、スーパーに対して、おそらく往路手前側の地域に限られることになります。</p>	<p>(再掲) 本事業は、既存の病院送迎車両の一部を活用したものであることから、実証運行の状況を見るなかで、今後の展望について検討していきたいと考えております。</p>
13	<p>2. また買い物場合は、往路だけでなく復路が保証されていないと、重い買い物荷物を持って帰宅することができないので、利用しにくいはずです。この点で、送迎車の便数が限られていること、往路、復路の運行方向が問題になります。</p> <p>病院側の都合でしかたないことではありますが、ただ小さな利便性を改善することは可能だと思います。現在、スーパーに往路で下車し、復路で再び送迎車に乗るまでの時間が、ご送付いただいた時刻表を見ると、28分間（10:11→10:39）です。高齢者ということも考えると、実質的には20分程度の買い物時間しかないのではと思います。病院側と調整して、復路の時間を10分遅らせれば、買い物時間を30分程度確保することができて、現実的な選択肢としての可能性が高まると思われました。</p>	<p>(再掲) 本事業は、既存の病院送迎車両の一部を活用したものであることから、実証運行の状況を見るなかで、今後の展望について検討していきたいと考えております。</p> <p>また、タクシー事業者から荷物輸送の許可を取得しているとの意見があったことから、復路における公共交通の活用可能性も含め、実証運行の状況を見るなかで、今後の展望について検討していきたいと考えております。</p>
14	<p>ヒアリング参加者の人数が少なくとも、声をあげたいという方がこの人数で一定のご意見を賜ったものと解釈されます。引き続き実証運行のなかで調整が図られればと思います。</p> <p>ただし、運行後必ずより遠くの場所に行きたいという意見が出ますが、それには利用者も相応の負担が必要であること、地域の方に理解いただきたいと思えます。</p> <p>また、タクシー事業者には今回の趣旨の理解をいただいたうえで、サービス提供範囲が無制限に広がるのではないかと懸念を払っていただければ幸いです。</p>	<p>地域、関係機関とともに理解を深め、公共交通の施策展開を検討して参ります。</p> <p>また、高齢者福祉の施策の範囲での無償運行が、公共交通の範囲に無限大に広がらないよう、実証運行の状況を見るなかで、今後の展望について検討していきたいと考えております。</p>
15	<p>「小さく生んで大きく育てる」ことがテーマだと思います。運行にあたり、利用者、非利用者の方々のデータを取り（利用人数とそれぞれのご意見を踏まえて）、その必要に応じて次の一手を考えていくことが何よりも考えております。安全で安心な運行をお祈り申し上げます。</p>	<p>(再掲) 高齢者の移動ニーズは、福祉の観点からの利便性を検討する必要があると考えています。引き続き、地域、関係機関とともに公共交通の施策展開を検討して参ります。</p>

◆交通事業者意見

No.	意見	市の考え方
16	<p>新たな移動手段確保推進事業における病院送迎車両の活用について → 運行地域等も調整済のため特に意見なし</p>	<p>了解しました。</p>
17	<p>無償での人員送迎は、タクシー事業者の民業圧迫にならないようにしてほしい。</p>	<p>地域ヒアリングでは「タクシーの混乗利用は難しい」との声がある一方で、「高齢者の買い物などで移動の必要性がある」との声をいただいたことから、今回の実証運行を計画しています。実証運行の中で、病院送迎車両の停留所1区間の新たな買い物利用が、既存のタクシー利用から転換されていないことを確認します。</p>
18	<p>タクシーによる荷物の輸送も可能であり、実証運行の中では、荷物がある帰り際にタクシー利用を促すなど、タクシーを組み合わせた運用も検討してほしい。</p>	<p>福祉の送迎と公共交通が互いに補完し合うことを目指し、実証運行の中で、現在のタクシー需要で担えない分野の移動を喚起するとともに、タクシーの効果的活用を踏まえ、新たなタクシー需要の喚起を図ってまいります。</p>
19	<p>利用者が目的にあった最適な移動手段を選択できるよう、今後、鉄道、路線バスだけでなく、タクシーや福祉の送迎も組み合わせた情報案内を行うなど、今回の実証運行をきっかけに利便性の高い移動サービスの実現を期待したい。</p>	<p>(再掲) 福祉の送迎と公共交通が互いに補完し合うことを目指し、実証運行の中で、現在のタクシー需要で担えない分野の移動を喚起するとともに、タクシーの効果的活用を踏まえ、新たなタクシー需要の喚起を図ってまいります。</p>

◆情報提供

No.	意見	市の考え方
20	<p>●京都京阪バスのダイヤ改正について 2022年12月17日（土）実施 近鉄のダイヤ変更に伴う時刻の変更および輸送力の調整を実施します</p>	<p>情報提供ありがとうございます。今般の近鉄のダイヤ改正では、平日通勤時間帯の利便性向上を図るものと交通事業者から伺っています。それに接続するバスダイヤの改正について市でも情報発信を行うことで、利用者確保に努めます。</p>
21	<p>●新型コロナの影響について等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年10月に運賃改定を実施したが、新型コロナ前（2019年）と比較して9割、それ以上は生活様式の変化もあり戻りはない（平日） ・行動制限緩和により人流が増加し、経済が回復する一方感染者数が微増しており、療養や自宅待機のために、出勤ができない乗務員が増加し、ダイヤ変更等の運休を余儀なくされる可能性もある（余剰人員なし） ・積極的な乗務員の採用を継続するも、乗務員確保の課題は続く ・インバウンド回復により、土休日の収支向上を図っていきたい 	<p>情報提供ありがとうございます。本市といたしましても、既存公共交通を維持していくために、引き続き利用促進をはじめとする利用者確保に向けた取組を進めてまいります。</p>